

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

## 病虫害発生予察情報について (予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

### 《特に発生に注意》

- 【水稲】 ジャンボタニシ
- 【もも】 せん孔細菌病
- 【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
- 【みかん】 アブラムシ類
- 【なす】 うどんこ病
- 【たまねぎ】 べと病、ネギアザミウマ(えそ条斑病)

### 《5月の予報概要》

#### A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

#### B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			ハスモンヨトウ		
			クワゴマダラヒ トリ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん				アブラムシ類	
いちじく			アザミウマ類		

## C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
トマト			アザミウマ類		
			葉かび病 ・すすかび病		
たまねぎ			灰色かび病		
			コナジラミ類		
			べと病		
			ネギアザミウマ (えそ条斑病)		

## D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			アブラムシ類		

### 《(参考)5月の気象予報》 (大阪管区气象台4月27日(木)発表)

気温	低い(20%)	平年並(30%)	高い(50%)
降水量	少ない(20%)	平年並(40%)	多い(40%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(30%)	多い(30%)

## A 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<b>[注意すべき事項]</b> ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 ・用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。 ・田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

## B 果樹

### 1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
灰色かび病	並 ～やや多い	<b>[予報の根拠]</b> ・施設栽培での巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・5月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <b>[注意すべき事項]</b> ・発病を認めたら、被害花穂・被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

ハスモンヨトウ	並 ～ <u>やや多い</u>	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設栽培での巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。</li> <li>5月の気温は高いと予想されている。</li> <li>フェロモントラップ調査における発生は平年よりやや多かった。</li> </ul>
		<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫が葉や新芽を食い荒らす。卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられる。卵からかえった幼虫が集団で葉を食べるので、卵塊や若齢幼虫の集団を見つけ出して葉ごと除去する。</li> </ul>
クワゴマダラヒトリ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設栽培での巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。</li> </ul>
		<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウ等に産卵する。</li> <li>主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ぶどうの新梢や葉を食害する。</li> <li>初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。</li> </ul>

## 2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並 ～ <u>やや多い</u>	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>近年、葉での発生が多い傾向が続いている。</li> <li>5月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul>
		<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要である。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。</li> <li>風当たりの強い園地では防風ネットを設置する等の対策を行う。</li> </ul>
シンクイムシ類	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。</li> </ul>
		<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。</li> <li>被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul>

## 3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部地域において発生が確認されている。</li> </ul>
		<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。6～8月に成虫が羽化する。</li> </ul>

クビアカツヤカミ キリ	発生に注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。</li> <li>・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。</li> <li>・成虫が発生する前の5月下旬までに4mm 目合いネットを2重、もしくは0.4mm 目合いネットを1重に樹幹に巻き付け、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め、他の樹への分散を防ぐ。</li> </ul>
----------------	-------	---

#### 4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アブラムシ類	やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。</li> <li>・4月中旬の黄色水盤調査における発生は平年よりやや多かった。</li> <li>・5月の気温は高いと予想されている。</li> </ul>

#### 5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主にネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ等がいちじくを加害する。</li> <li>・果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。</li> <li>・ほ場の周囲を 0.8mm 目合いの赤色ネットで覆う、もしくは乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。</li> </ul>

### C 野菜類

#### 1 なす(施設栽培)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。</li> <li>・5月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤(アフエット、カンタス、シグナム)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
灰色かび病	並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。</li> <li>・5月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。</li> <li>・20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。</li> <li>・QoI 剤(シグナム)、SDHI 剤(アフエット、カンタス、シグナム)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>

うどんこ病	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の日照時間は少ない～平年並と予想されている。
		<b>[注意すべき事項]</b> ・窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。 ・QoI剤(アミスター、ストロビー)、SDHI剤(アフェット)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> ・巡回調査では、発生は平年より少なくほとんどみられなかった。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		<b>[注意すべき事項]</b> ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難なため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培等を行う。

## 2 トマト(施設栽培)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	並	<b>[予報の根拠]</b> ・巡回調査では、発生は平年より少なくほとんど見られなかった。 ・5月の降水量は平年並～多いと予想されている。
		<b>[注意すべき事項]</b> ・日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。 ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。
灰色かび病	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> ・巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。 ・5月の降水量は平年並～多いと予想されている。
		<b>[注意すべき事項]</b> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の気温は高いと予想されている。

コナジラミ類	並～ <u>やや多い</u>	<b>[注意すべき事項]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吸汁による果実の着色不良のほか、トマトではTYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。</li> <li>・ハウス栽培では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ほ場内および周辺の除草に努める。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・トマト黄化葉巻病(TYLCV)の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul>
--------	-------------------	--

### 3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・5月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul>
		<b>[注意すべき事項]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。</li> <li>・抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。</li> </ul>
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・5月の気温は高いと予想されている。</li> </ul>
		<b>[注意すべき事項]</b> <p><b>【ネギアザミウマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)を媒介する。たまねぎやねぎなどネギアザミウマの寄主作物を作付けしている地域では、ネギアザミウマが互いの作物間を移動することが確認されており、本虫の移動に伴ってIYSVの感染も広がる。</li> <li>・発生初期の防除に努める。</li> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul> <p><b>【えそ条斑病】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えそ条斑病に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるネギアザミウマの早期発見・早期防除に努める。</li> <li>・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し土中深く埋めるか、廃ビニールで覆って密閉する等適切に処分する。</li> </ul>

### D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並～ <u>やや多い</u>	<b>[予報の根拠]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・4月中旬の黄色水盤調査における発生は平年よりやや多かった。</li> <li>・5月の気温は高いと予想されている。</li> </ul>

アブラムシ類	並～ やや多い	<b>[注意すべき事項]</b> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--------	------------	--

- 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ  
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>
- 病害虫発生情報メールサービス  
 申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当  
 TEL 072-957-0520  
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>
- おおさかアグリメール  
 申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当  
 TEL 072-979-7070  
<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。